

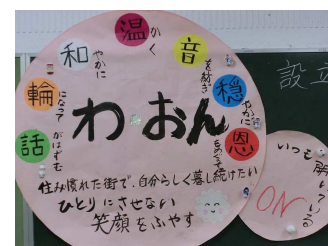
●●●インクルファンドで助成した団体を紹介します●●●

小金井・ワーカーズまちの縁がわわ・おん (小金井市)

武蔵小金井駅から徒歩約5分とアクセスが良く、ゆっくりおしゃべりやランチを楽しんだ後、お隣のエコメッセ店舗で掘り出し物を見つける楽しみもある「まちのほっとスペースわ・おん」。東京全体で10か所になった「まちのほっとスペース」は、居場所・相談・ちょっとした手助けを行うほっとサービスの3つの機能を持つ地域の拠点です。



運営する小金井・ワーカーズまちの縁がわわ・おん代表の山科涼子さん(写真)は、「食を通じて社会が見える生活クラブ生協の活動を出発点に、アビリティクラブたすけあい(ACT)の「まちの相談パートナー養成講座」を受講したことが縁がわワーカーズの活動につながっています。地域の中で暮らす人同士が直接ふれあう場所が必要だと感



わおんの「わ」=和やかに輪になって話しが弾む。和音=響きあうハーモニー。「おん」は暖かく音を紡ぎ、穏やかに恩をめぐらす。そしていつも開いているオン(ON)を表します。

じました。今はやりたいことが形になってきてすごく楽しい。」といいます。食事の提供だけに終わらないよう、初めて訪れた人にはできるだけ話をしているとのこと。自由に感想を書けるノートには「ほっと一息つきたい時にぴったり。居心地が良くてついつい長居してしまう」「こちらに来ると優しい気持ちになる」との感想が。この場所がなくなるのはいやだからと賛助会員になった方もいるそうです。

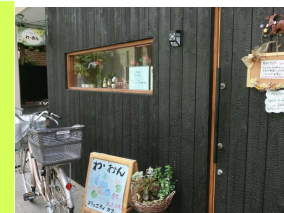


現在メンバーは16人、サポーターは21人。働く人を増やし、週3回(火・木・土)の手作りランチを週5回にすることが当面の目標です。

地域の中にほっとできる居場所があることは誰にとっても大切なことです。自分自身のためにも、まちのほっとスペースをもっと増やしていきたいと感じました。

インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子

まちのほっとスペースわ・おん
場所：小金井市本町 5-7-16-102
営業日：火～土 10:00～17:00
<定休日> 日・月・祝
連絡先：080-7887-1766



サポーター募集中！あなたの1日10円で、つながり・支えあう豊かな地域社会をつくろう！

サポーターとは『地域ごとに必要な機能をつくり、市民が参加し利用するまちづくり型福祉』を推進し、豊かな地域社会づくりにつなげるために、インクルーシブ事業連合の運営および助成の財源を寄付で支える、個人または団体のことです。

<会費> 個人 3,600円/年 団体 10,000円/年

※生活クラブ組合員の場合、登録制で300円/月を共同購入代金と一緒に引き落とすことができます。(登録後は、中止のお申し出がない限り継続されます。中止したいときは下記にご連絡ください。)

★サポーターになるには、下記の登録申込書をファックスまたは郵送していただくか、ホームページのお申し込みフォームからご登録ください。URL <http://inclusive-gr.com/>

郵送先：〒156-0051 世田谷区宮坂 3-13-13 3F「生活クラブ・東京」内 インクルーシブ事業連合
 ファックス：03-5426-5203 電話：03-5426-5207

お名前			
ご住所	〒		
電話番号		メールアドレス	
所属	・生活クラブ生協(組合員コード：)・助成を受けた団体() ・運動グループ(団体名：)会員、メンバー ・その他()		
申し込み口数	個人()口	・・・1口	3,600円/年
	団体()口	・・・1口	10,000円/年

*ご記入いただいた個人情報は、インクルーシブ事業連合のサポーター登録およびお知らせの送付に限り使わせていただきます。

つながって実現！ 市民主体のまちづくり型福祉

インクルーシブ通信

2017年9月
Vol. 21



発行：生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合 発行責任者：土谷雅美 <http://inclusive-gr.com>

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-13-13 生活クラブ・東京内 TEL 03 (5426) 5207 FAX 03 (5426) 5203

地域福祉をさらに推進する 2017年度方針！ ～第6回通常総会報告～



総会には地域協議会選出の参加者を含む95名中65名が出席、すべての議案が賛成多数で可決されました。(6/17)

【インクルーシブ事業連合の基本的視点】

- 一人ひとりが尊重され、自分のニーズを満たし合う社会のあり方をインクルーシブ社会と呼び、目標とする
- 自分らしく生きるために必要とする社会の機能と人の関係性を自分たちで描き、つくり出す
- 行政の福祉政策だけに任せず、市民が主体となり、参加型に必要な機能を市民事業として生み出す
- 共に生きる地域づくりを環境、食の安全も含めたまちづくりのテーマとして取り組む
- 地域をステージに人の関係性を再構築し、いざというときにたすけあえる安心のある地域社会をめざす

【2017年度方針】

- 市民版地域福祉計画の策定と実行支援
- 地域たすけあい福祉基金「インクルファンド」助成助成の種類は3種類。市民版地域福祉計画に基づく事業の立ち上げには300万円を上限に助成
- 居場所づくりフォーラム開催支援 開催する地域協議会に対して1か所3万円を上限に助成
- 子育て支援フォーラム 活動から見える子どもに関する課題を共有、貧困の連鎖を断ち、子どもを地域で支えるまちづくりのヒントを発信
- ともに働く事業所指定寄付 働きづらさを抱える人とともに働くことを推進する事業所が登録、インクルとともにアピールし、指定寄付を募る

- まちの縁がわ推進 ACTと連携し、まちの縁がわの活動や立上げの経緯などを冊子化し活用
- 福祉ツアー 地域包括ケアの先進事例を視察
- 第3次3カ年計画(2018～2020年度)策定

【ともに働く事業所・活動報告】

総会に先立ち、16年度初めて取り組んだ「ともに働く事業所指定寄付」で寄付目標10万円を達成したNPO法人コンチエルトイーノ理事長・浅川悦子さんが活動報告(写真)。2009年に事業化し、15年には東京都の就労訓練事業所に。現在、20代から70代まで20名の訓練を受け入れています。石けんを使った「お掃除ぼるか」、チラシ折り・封入など「てしごとワルツ」、ポスティングなど「おでかけマーチ」に参加したことで、適度な疲れから睡眠が確保され、精神面や経済面も改善し、コミュニケーション能力の向上にもつながった事例などが紹介されました。「相談café」も充実させ、地域の中に元気に働ける中間的就労の場を増やすには「事業所は小さいほうがいい」「細かいしほりがいい補助金制度がほしい」とのお話が印象的でした。

浅川さんは、社会保障審議会生活困窮者自立支援及び生活保護部会でも6月、参考人として、就労支援のあり方を国に提言。



インクルーシブ
事業連合・協賛

AHLA
Alternative Housing & Living Association

第12回もうひとつの住まい方推進フォーラム2017 コミュニティ再生という「もうひとつの団地再生」の展開

日時：12月2日(土) 13:00～17:00 場所：芝浦工業大学 芝浦校舎 802教室
 主催：もうひとつの住まい方推進協議会 連絡先：TEL03-3205-6840 FAX03-3200-9250
 メール：info@ahla.jp ホームページ：http://www.ahla.jp

【インクルーシブ事業連合構成団体】生活クラブ生協・東京/NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT)/社会福祉法人悠遊
 東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合/東京・生活者ネットワーク/東京CPB(コミュニティパワーバンク)
 認定NPO法人市民シンクタンクひと・まち社/認定NPO法人まちぼっと/環境まちづくりNPOエコメッセ